

少女マンガ『アラベスク』と「アリ・ババと40人の盗賊」

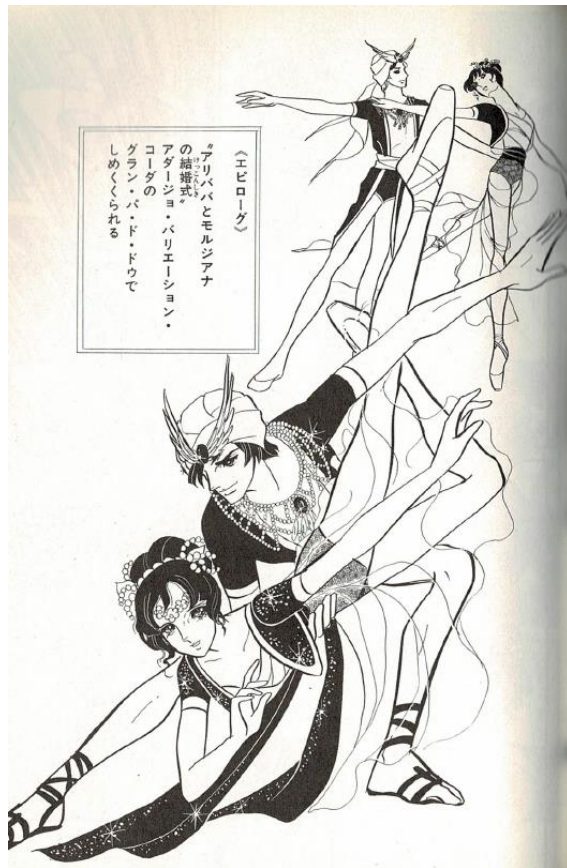
2019.6.1 (6.23 修正)

ある学生が、山岸涼子さん作の少女マンガ『アラベスク』と「千夜一夜 (アラビアン・ナイト)」の関係を教えてくださいました。主人公が躍るバレエが、「アリ・ババと40人の盗賊」をモチーフにしたものだというのです。さっそく『アラベスク』I~IV (白泉文庫) を注文して読んでみました。



《第2幕》
アラビアの踊り、
町中の踊り、
40人の盗賊が
アリババの家を
さがしたそうと
するが、モルジアナ
の機転によって
救われる。そして…





私はマンガというものをあまり読まずに育ち、山岸涼子さんの作品も初めてです。なので本が届くまでやや懐疑的だったのですが、冒頭からけっこう引き込まれました。ストーリー展開のテンポが良く、「アラビアン・ナイト」との関係以前に作品として面白いと素直に思いました。少女マンガの独特な世界観全体（恋愛至上主義とか…）に対してとやかく言うことは、ここでは封印することにしました。

「アラベスク」がバレエの基本ポーズの名前だということも初めて知りました。山岸涼子さんは主人公が主役に抜擢される新作バレエを、この名前から連想される「アラビアン・ナイト」をモチーフにしたものと設定したわけです（正確に言えば、「アリ・ババと40人の盗賊」は「千夜一夜」の原本や写本には入っておらず、後から加えられたものですが）。

さて、作品全体のストーリーをここで中途半端に紹介することはやめておき、作品中で設定されている創作バレエ「アラベスク」とオリジナルの「アリ・ババと40人の盗賊」の違いをメモしておきます。

創作バレエ「アラベスク」ではアリ・ババとモルジアナ（アラビア語ではマルジャーナ）の二人を前面に出すためでしょう、この両者が「ひそかに愛しあっている」という設定です。一方、オリジナルのアリ・ババには、すでに妻子がいます。しかし強欲な兄カシムが盗賊た

ちに殺されたあと、彼女を二番目の妻として迎えます（二番目の妻、という流れに「エッ」と思う人もいるかもしれませんが、これは寡婦となった兄嫁を路頭に迷うことから救い出す義務としての行為であり、アリ・ババの徳の高さを示すエピソードです）。

「アラベスク」でも表現されているように、モルジアナの機転でアリ・ババ一家は盗賊たちによる復讐を免れ、盗賊たちはモルジアナの手で殺されます。モルジアナの働きに報いるため、アリ・ババは彼女を奴隷の身分から解放してやりますが、彼女は引き続きアリ・ババの家で暮らします。手下を殺された盗賊の首領は、その恨みを晴らすため商人になりすましてアリ・ババの家に招かれますが、その正体を見破ったモルジアナの手で殺されます。ふたたびモルジアナの賢さと勇氣に感服したアリ・ババは彼女を息子のムハンマドと結婚させることにし、すでにそれを願っていたムハンマドは一も二もなく従います。

盗賊が宝を隠した洞窟の扉を開けるための合言葉「ひらけ、ゴマ！」は有名ですが、意外とストーリー全体は知られていないと思います。アリ・ババがこの合言葉の秘密を知り、盗賊たちが洞窟に隠した宝物を持ち帰ることに成功するのは、寛容でアッラーを恐れ敬う心をもっていただけで、強欲な兄カシムとは対照的です。しかし後半になって大活躍するのはモルジアナであり、ごく小さな異常を見逃さない観察力と、僅かな手がかりから事態の全体をすばやく把握する理解力を持ち、問題を解決するためにとてつもない機転と行動力を発揮させます。彼女が38人の盗賊を「殺害」（40人の盗賊のうち二人は首領の手で殺されず）した点は物語のなかのこととして、卓越したその能力は現実の世界でも称賛されうるものでしょう。